

北九州と 3.11

「あの日」から5年——
東日本大震災以来、北九州市が
行ってきた被災地支援や〈震災後
文学〉を紹介します。

2016年3月11日(金) → 3月31日(木)

【開館時間】 9:30 ~ 18:00

(入館は17:30まで)

観覧無料

【休館日】 月曜日

(ただし3月21日(月)は開館、翌日休館)

【主催】北九州市立文学館

【協力】北九州市危機管理室



北九州市立文学館
Kitakyushu Literature Museum

〒803-0813 北九州市小倉北区城内4-1

Tel:093-571-1505 Fax:093-571-1525

<http://www.kitakyushucity-bungakukan.jp/>

井上靖と狩野川台風

関東大震災と神奈川

「大庭れいじ」の世界

関東大震災をこえて～久米正雄～

3.11

あれから5年、そしてこれから…——3.11と詩歌

樋口一葉の手紙 山梨の知人への水害見舞

文学に見る震災資料展

浅間山と御嶽山の噴火と文学

東日本大震災以後に生まれた文学

『美しい星』と人類救済の試み

天災地変と文学

文学に描かれた福井震災～復興へ向けて～

詞（ことば）のちから

司馬遼太郎と阪神淡路大震災

戦前版教育紙芝居『稲むらの火』
—村人を津波から救った庄屋さん—

田辺聖子が伝える「危険についての想像力」

資料からたどる吉村文学と災害
—『三陸海岸大津波』と『関東大震災』

与謝野晶子と大震災

森鷗外と明治・大正の災害

森鷗外に見る地震・洪水

林芙美子と災害

時実新子と阪神・淡路大震災

震災を書く

震災の中の作家たちⅡ

文学者が語る関東大震災

寺田寅彦と地震 4

河野通勢が報じた関東大震災 Part2

北九州と3.11

文学館からのメッセージ

我国は有史以来、毎年各地を襲う天災地変による災害を体験してきました。二〇一四年九月二十七日御嶽山（長野・岐阜県）が水蒸気爆発をし、五十九名の方が死亡し、四名の方が行方不明になっています。火山噴火による戦後最悪の被害となりました。二〇一五年五月二十九日口之永部島の新岳が火を噴き、住民は島を離れることを余儀なくされています。九月一日桜島、九月十四日阿蘇中岳が噴火をし、入山規制となっています。また、九月十日関東・東北を襲った豪雨で鬼怒川の堤防が決壊し、濁流は住宅街へ流れ込み多大な被害をもたらしました。日本列島は相変わらず災害列島と言わざるを得ません。

この全国文学館協議会の共同展示は、二〇一一年三月十一日の東日本大震災を契機に開催されました。死者に対する鎮魂と被災者への慰謝を願う心から、当時の会長中村稔氏の提案に賛同した文学館が二〇一三年三月、一斉に展示を始めました。

東日本大震災は、地震・津浪という自然災害に加えて、原子力発電施設のメルトダウンによる放射能汚染が深刻な影響を多方面に与えています。放射能の除染の効果も上がらず、汚染水の処理も未だにコントロールできません。

県外に今なお五万余の人が避難しており、「帰還困難区域」や「居住制限区域」が残っているため、ふるさとに帰還できずにいます。仮設住宅に今も六万八千人が暮らしています。過酷な体験は、記憶から消し去ろうとします。そうだけでなく多くの表現者が大震災を直視し、多彩な表現を紡ぎ出してきました。それらの表現を収集し、展示し、保存していくことも文学館の責務であると考えます。

ここに全国文学館協議会の各館は、この未曾有の大災害を直視し、記憶に止め、死者たちへの鎮魂と哀悼、被災者への慰謝とコミュニティの復興を願って、共同展示を開催いたします。

二〇一六年一月